

再生療法WEBセミナー

若手歯科医師編

本WEBセミナーでは歯周組織再生療法における最新の治療方法である歯周組織再生剤リグロス®
についてその効果を最大限に発揮させる手術手技の解説と、
臨床における実際の使用例を交えてご紹介いただきます。

Live
配信

日時:2023年6月12日(月) 19:30~20:50

開催方式:Zoomウェビナー(WEB開催)

参加方法:QRコードよりご登録ください



無料

座長兼演者

19:30-19:50

牧草歯科医院 院長 牧草 一人先生

「歯周組織再生療法を成功に導くための
外科基本手技」



演者1

大阪歯科大学歯周病学講座 講師 嘉藤 弘仁 先生

19:50 「大阪歯科大学附属病院におけるリグロス®を用いた歯周組織
-20:10 再生療法 — 全身疾患を有する患者への応用を含めて — 」



2010年 大阪歯科大学歯学部 卒業
2014年 同大学大学院歯学研究科 修了
博士(歯学)
2015年 同大学歯学部 歯周病学講座 助教
2021年 同大学歯学部 歯周病学講座 講師

日本歯周病学会 専門医
日本歯科保存学会 専門医

演者2

20:10-20:40

うしくぼ歯科 院長 牛窪 建介 先生

「日常臨床におけるリグロス®の使用の留意点」

2006年 大阪歯科大学歯学部 卒業 (第54期)
2007年 同大学臨床研修 修了
2011年 医療法人晴和会うしくぼ歯科 勤務
2014年 医療法人晴和会うしくぼ歯科 院長就任

日本臨床歯周病学会 認定医
日本歯内療法学会 専門医



主催:科研製薬株式会社

参加方法のご案内・お願い

【登録方法】

下記URLまたは二次元コードより登録フォームにアクセスし、必要事項をご入力、送信ください。
定員人数に達しましたら受付を終了いたしますのでお早めにご登録ください。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_gYesxD8VQ2GuY5IITOdHtQ

短縮版：<https://bit.ly/41r0yly>

※いずれかのURLよりご登録ください

ご登録完了後、当日の参加用URLが送信されます。

(開催日1週間前、1日前、1時間前にはリマインドメールが届きます。)



【視聴方法】

登録完了メールまたはリマインドメールより、リンクをクリックしてご参加ください。

Zoomに参加する方法

1. PC、Mac、iPad、またはAndroidから参加する

ウェビナーに参加

上記のボタンが機能しない場合は、このリンクをブラウザに貼り付けてください。

<https://us06web.zoom.us/j/839813559957>

key=yrWqebThHITjufPAIYtsk8tz8gRCaV3nj2GT2VZTDhs.DQMAAAATja3L2xZ0REluekEySFJHZU

Zoomウェビナーに招待されています。

日時: 2021年11月4日 07:30 PM 大阪、札幌、東京

トピック: 再生療法WEBセミナー [手術手技×臨床成績] (科研製薬株式会社)

PC、Mac、iPad、iPhoneまたはAndroidデバイスから参加できます:

ここをクリックして参加

注: このリンクは他の人と共有しないでください。あなた専用のリンクです。

※本講演会はビデオ会議システム「Zoom」を使用します。

※当日はインターネット環境の整った場所でご視聴ください。

※ご質問は当日、Q&Aにて受付いたしますが、ご登録時に事前に入力いただくことも可能です。

※ご不明な点は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。

問い合わせ窓口

科研製薬株式会社 学術推進グループ 福田 幸弘 (フクダ ユキヒロ)

【TEL】080-5983-0837 【E-mail】fukuda_yukihiro@kaken.co.jp

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 口腔内に悪性腫瘍のある患者又はその既往歴のある患者
[本剤が細胞増殖促進作用を有するため]

【効能・効果】 歯周炎による歯槽骨の欠損

《効能・効果に関連する使用上の注意》

1. 本剤は、歯周ポケットの深さが4mm以上、骨欠損の深さが3mm以上の垂直性骨欠損がある場合に使用すること。
2. 本剤は、インプラント治療に関する有効性及び安全性は確立していない。

【用法・用量】 歯肉剥離掻爬手術時に歯槽骨欠損部を満たす量を塗布する。

《用法・用量に関連する使用上の注意》

本剤の使用にあたっては【臨床成績】の項を参照し適切な量を用いること。

【承認条件】 医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

【使用上の注意】<抜粋>

1. 重要な基本的注意

- (1)本剤は歯周外科手術の経験のある歯科医師又は医師が使用すること。
- (2)術後に歯肉弁の著しい陥凹を生じると予想される骨欠損部位に対しては、他の適切な治療法を考慮すること。

2. 副作用

本剤が投与された安全性評価対象症例429例中3例(0.7%)に副作用が認められた。その内訳は、適用部位における歯肉白色化、歯肉紅斑、歯肉腫脹および歯痛が各1例(0.2%)であった。臨床検査値異常は429例中51例(11.9%)に認められ、その主なものは尿中アルブミン陽性27例(6.3%)、尿中β₂ミクログロブリン上昇17例(4.0%)、尿中NAG上昇16例(3.7%)、CRP上昇6例(1.4%)等であった。(承認時)

分類	頻度	1%以上	1%未満	頻度不明
適用部位および適用部位近傍			歯肉白色化、歯肉紅斑、歯肉腫脹	硬結、肥厚
精神神経系			歯痛	
臨床検査		尿中アルブミン陽性、尿中β ₂ ミクログロブリン上昇、尿中NAG上昇、CRP上昇	AST(GOT)上昇、ビリルビン上昇、CK(CPK)上昇、ALT(GPT)上昇、LDH上昇、尿糖陽性、リンパ球増多、好中球減少、単球増多、白血球減少、総蛋白上昇	

●その他の使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

2022年7月改訂(第6版)



薬価基準収載

製造販売元
【文影請求先及び
問い合わせ先】



科研製薬株式会社
東京都文京区本駒込二丁目28番8号
医薬品情報サービス室

処方箋医薬品(注: 医師等の処方箋により使用すること)